



農業の知識をいかして 地域に活力 豊かな生活

農業の基礎知識の取得のために3級を!
営農指導力のスキルアップには2級・1級を!



2026年度農林水産省・文部科学省後援

試験日

第1回

7/4

土

第2回

12/5

土

日本農業技術検定

応募期間 [第1回] 4月17日(金)~5月21日(木) [第2回] 9月28日(月)~10月22日(木)

受験級 [第1回] 3級・2級 [第2回] 3級・2級・1級

日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業をめざす学生や社会人などを対象に、教育研修の効果を高めることを目的とした農業専門の全国統一の試験制度です。

農業は、地域での営農活動を通じて食料を安定的に供給し、地域経済を活性化して、環境保全とあわせて私たちの食生活を支えています。農業知識の修得は、そうした農業の価値の理解を深め、農業に携わる職業への従事を促すなど、農業の持続的発展に大きく貢献します。

実施主体

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)

<https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>





日本農業技術検定 概要

第1回

2026年7月4日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月17日(金)~ 5月21日(木)

第2回 9月28日(月)~10月22日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

第2回

2026年12月5日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

受験料(税込)

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,140円	2,620円	1,570円
2級	4,190円	3,350円	2,090円
1級	5,240円	4,190円	2,620円

※複数級受験割引=学科の「3級と2級」又は「2級と1級」を同一検定日に受験の場合、受験料を1,000円割引。

【2025年度優秀表彰団体(JA・大学・大学校等の部)】

(3級)(JAの部)最優秀団体:福井県農業協同組合、優秀団体:富士伊豆農業協同組合

(2級)(JAの部)最優秀団体:香川県農業協同組合、優秀団体:東京中央農業協同組合

(大学の部)最優秀団体:茨城大学農学部、優秀団体:新潟食料農業大学、龍谷大学農学部、摂南大学農学部、鳥取大学農学部、県立広島大学、東海大学農学部

(大学校等の部)最優秀団体:群馬県立農林大学校、優秀団体:埼玉県農業大学校、テクノ・ホルティ園芸専門学校、アグリノベーション大学校関東校、アグリノベーション大学校関西校、大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校

●JA新はこだて、NOSAIとちぎ、JA東京中央、JAマインズ、JAかながわ西湘、JA梨北、JAぎふ、JAふじ伊豆、JAあいち豊田、JAこうか、JA長野中央会、JA上伊那、JAあづみ、JA信州うえだ、JA信州諏訪、JA佐久浅間、JAみなみ信州、JA松本ハイランド、JA福井県、JAいずみの、JA大阪南、JA丹波ひかみ、JA兵庫六甲、JA香川県、NOSAI香川、JA粕屋、JA福岡市、JAふくおか八女、JAふくおか嘉穂、JA長崎せいひ、JAくま、JAおおい、JAあいら、JAおきなわ、では営農指導力の向上や一般職員のキャリアアップを目的に団体受験を実施しています。

県連グループとして、営農指導員上級資格の要件の一つとしたり、一般職員は全員3級資格を取得する取り組みを進めるところもあります。

●拓殖大学北海道短期大学、宮城大学、秋田県立大学、茨城大学、高崎健康福祉大学、玉川大学、東京農業大学(神奈川、北海道)、日本大学、名城大学、新潟食料農業大学、信州大学、龍谷大学、京都先端科学大学、摂南大学、鳥取大学、県立広島大学、佐賀大学、東海大学(熊本)、大分短期大学、南九州大学、宮崎大学、琉球大学、では大学生の団体受験を進めています。多くの大学では学生がもともと農業経験もないため、農学習得の補強手段として活用されているほか、日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験に取り組んでいます。

●本検定の上位資格は、一定の農業に関する実務の知識を習得していることの証明になります。また、国の雇用就農事業のほか、県の新規就農育成事業において、研修の成果として本検定を活用している事例もあります。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1級、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、1級・2級実技試験は免除措置があります。詳しくは本検定ホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問。ただし、「環境系」については、環境共通10問と3専門分野(造園、農業土木、林業)別に各10問 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: 農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業一般として共通10問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	

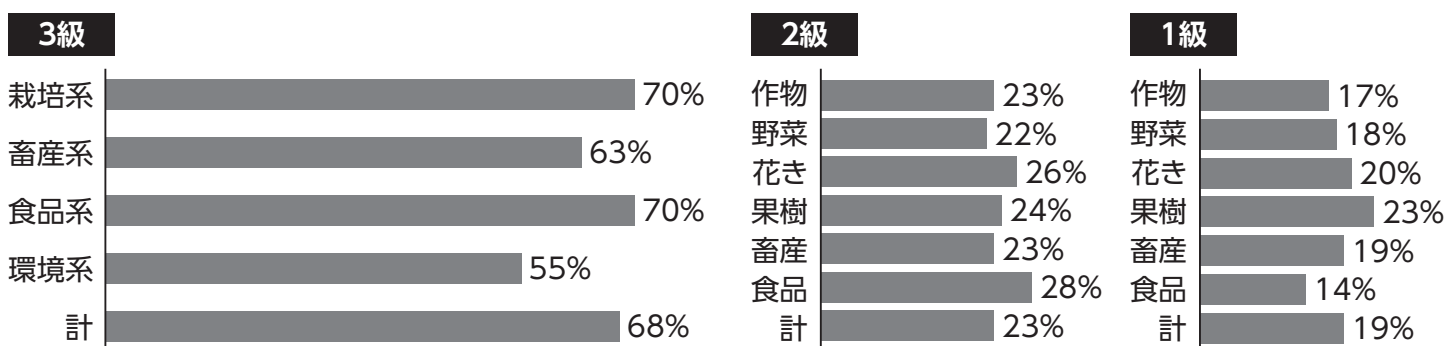
日本農業技術検定の受験実績

(受験者数
合格率)

①全体受験実績(2020～2025年度)

	3級	2級	1級	合計
2020年度	18,790人(66%)	3,015人(21%)	206人(7%)	22,011人(59%)
2021年度	20,939人(66%)	5,908人(23%)	265人(5%)	27,112人(56%)
2022年度	17,932人(63%)	5,024人(21%)	243人(13%)	23,199人(54%)
2023年度	17,573人(66%)	4,447人(23%)	261人(10%)	22,281人(57%)
2024年度	17,984人(65%)	4,580人(23%)	278人(12%)	22,842人(56%)
2025年度	17,251人(68%)	4,404人(23%)	261人(19%)	21,916人(58%)

②科目別合格率(2025年度)



③合格基準

[3級] 100点満点の原則60%以上

[2級] 100点満点の原則70%以上

[1級] 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証明書が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技試験免除

2級実技試験(ほ場での農業機械についての実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での所定の農業機械等の農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上の講習を修了していれば免除が可能となります。

2級の団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお勧めします(最高5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

※農業機械の実習証明に必要な講習会については、本検定ホームページをご参照ください。

②1級実技試験免除

1級実技試験(12月の1級学科試験と同日時に実施)は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。農業系の学校等での農場実習等4単位取得者又は2年以上の営農実務経験を有する方は免除が可能となります。詳細は本検定ホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは
ホームページから

<https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

①一般受験

個人がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込んでください。

雇用就農資金支援対象の雇用就農者は、都道府県農業会議が受験者を取りまとめてインターネットで申し込みます。

※受験料の振込先口座番号は受験者(団体)別になっており、毎回変わります。所定の振込口座へ、応募期間内に受験料をお振込みください。

②団体受験

学校・JA・農業法人など要件(受験者5名以上、試験会場を提供、試験官1名以上担当など)を満たす実施団体がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込んでください。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は本検定ホームページをご覧ください)

テキスト・参考書を活用して、①過去問題集を解いて出題傾向をつかむ。②過去問題集の解説やテキスト、高等学校農業用教科書で問題を確認する。③自分の苦手な領域を重点に②の確認を行う。④類似した出題もあるので過去問題集を何度も学習する—などの勉強方法も効果的です。

2026年版
日本農業技術検定
過去問題集
(2級・3級)
好評販売中!

農業技術学習の
スタンダード!

日本農業技術検定
2級テキスト
(改定新版)

内容を拡充して
2分冊で刊行
絶賛にて発売中

3級

- (1) 2026年版過去問題集3級 (発行) 全国農業会議所
*2023年度、2024年度、2025年度試験問題6回分を収録
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行) 全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版社

2級

- (1) 2026年版過去問題集2級 (発行) 全国農業会議所
*2025年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト(改訂新版)注 (発行) 全国農業会議所
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版社

1級

- (1) 1級学科試験問題…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
*2023、2024、2025年度試験問題、年度ごとに実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級参考図書…農業関係出版社

*1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧の上、本検定協会事務局宛にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

*テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666
注)2級テキスト(改訂新版)は2分冊(I 農業一般・作物・野菜、II 農業一般・花き・果樹・畜産・食品)で、発行は全国農業会議所です。

JAなどにおける団体受験の取り組み紹介

雇用就農などを支援する国の補助事業や県の新規就農者育成事業では、農業の実践的な研修成果として研修生を対象に団体受験を行って本検定を活用しています。また、**就農を支援する農業専門学校**でも、学校を会場に全学生を対象に検定受験に取り組んでいます。本検定を受験することで、修得すべき農業知識や技術レベルを確認しながら研修を受けて学ぶことができ、効果的な研修の実施に活用されています。

JAグループによる日本農業技術検定の取り組みは、当初は九州の一部のJAだけでしたが、徐々に取り組むJAも増え、令和3年度には52JA、約1,800人が受験しました。その後はJA合併などで受験者も減っていますが、7年度は33JA、約700人が受験しています。

JA関係者の受験は、県中央会によるJA営農指導員を対象とした1~

2級の受験に加えて、JAの全職員がスタンダードレベルの農業知識を持って農業者とのコミュニケーションをとる職員教育の一環として、一般職員にも3級受験を推奨する取り組みが増えているのが特徴です。

また、人事評価の資格に本検定を導入し、キャリアアップのために受験を奨励して職員の資質向上につなげるJAもあり、JAでの本検定の活用場面も増えてきています。

最近では、NOSAI(農業共済)の都道府県組織において、収入保険事業など農業の現場をふまえた業務の実施にあたり、農業経験のある若い職員が少なくなる中で本検定の団体受験を進める事例もあります。農業の基礎的な知識や技術を身に付けることで、地域農業の経営実態などの理解が深まり、より一層の円滑で適切な業務につながることが期待されています。

私たちが応援しています! — 日本農業技術検定への協賛企業・団体



お問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2階

TEL: 03-6910-1126 FAX: 03-3265-5140 e-mail: kentei@nca.or.jp

日本農業技術検定協会
構成団体

(一社) 全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社) 日本農業法人協会、(一社) 全国農業改良普及支援協会、(公財) 農民教育協会、(公社) 国際農業者交流協会、(一社) 日本農業機械化協会、(一社) 全国農協観光協会、(一社) 農山漁村文化協会、(一社) 全国農業会議所【事務局】